

(財)都市緑化技術開発機構では、緑化技術に関する研究・開発の推進に向けて、緑化技術に関する情報を産官学民で共通的に把握する手掛かり(道しるべ)となるツール(プラットフォーム)を整備しました。

緑化技術と一言でいっても、実際に植栽するためのハードな技術から、管理や利用などのソフトな技術もあり、その内容は様々です。また、緑化技術は、様々な場面や環境に応じて使われており、緑化技術の分類・体系化にはいろいろな方法が考えられます。

一方、屋上や壁面など、かつて緑化が困難とされてきた特殊空間の緑化技術をはじめ、緑化技術は時代の要請に応じて日々進歩しています。

緑化技術情報プラットフォームは、このような状況を踏まえて試みたツールであり、今後、必要に応じて拡充・更新することを念頭において公開しています。

■緑化技術とは

緑化技術とは、様々な空間や環境で期待される要求や条件に応じて“みどり”のもつ多様な機能を十分に発揮させるための技術であり、

- 植物を適切に植栽し、多様な機能を発揮・持続させるために必要な調査・計画・設計・施工・管理・運営に関する技術
- 様々な条件下において、植物の健全な生育を促し、緑化の可能性を拓げるための工法、資材などに関する技術
- 緑化による機能の評価、緑化の普及啓発や協働などに関するソフト的な技術

わが国は、南北に細長く標高差も大きいため、気候や地形の変化に富んでおり、人々の様々な働きかけを通じて多様な自然・景観・みどりが広がっています。

私たちは、里地・里山のように、長い歴史の中で、それぞれの地域に固有の“みどり”の恵みを上手く活かしながら豊かな暮らしを営んできました。また、日本庭園や茶道、華道などを通じて豊かな感性や美意識を培い、花と緑の文化を育んできました。

近年の日本では、社会経済が目覚しく発展する一方、大規模開発による自然の破壊、都市部への人口や産業の集積等による緑地の減少や公害の発生などの問題が発生し、それとともに人々から“みどり”が遠ざかり、生活の快適性や季節感が失われ、また農林業の営みにも影響を及ぼしてきました。

また、地球温暖化や生物多様性の喪失など地球規模の環境問題も相俟って、様々な問題が顕在化する中で、自然・景観・みどりへの関心と、その機能に対する期待が高まり、緑地の保全や緑化の推進に係る多くの施策が展開されています。

緑化は、古くから庭園や公園などにおいて、快適さや美しさに重点を置いて造園分野を中心に進められてきましたが、今日の緑化技術は、時代の要請やニーズの多様化・高度化にともない、環境の保全・再生や安全・活力など様々な要求に対して、いろいろな分野と関わりながら多様な場面で活用されています。また、経済社会や生活空間の拡大・高度化により、室内(アトリウムなど)や屋上・壁面、里地・里山や原生自然、砂漠地、熱帯雨林など、身近な環境から地球環境まで、緑化の対象空間・環境が広がっています。

すなわち、様々な要求に対して、“みどり”のもつ機能を十分に発揮させるため、“みどり”の持つ特性を『いかす』技術として発展してきています。また、緑化技術は、様々な場面で“みどり”を『つくる』技術、“みどり”の効果を十分に発揮させるための『そだてる』技術、その効果を持続させるための『まもる』技術としても進展してきています。さらに、近年の社会経済情勢の変化から、効果的かつ効率的な緑化の推進に向けて、“みどり”を『ひろめる』技術も着目され、開発が進められています。

これらの緑化技術は、個々に用いられるだけでなく、複合的・総合的に用いられて一層の効果を挙げています。私たちは、緑化技術を駆使して、人と自然が共生した、資源循環型の、持続可能な社会を確立していく必要があります。緑化技術とは、現代はもとより次世代の環境や社会にも重要な役割を果たしている技術なのです。

緑化技術情報プラットフォームをご覧になる方へ

【提供】、【出典】等の表記の無い写真、図版等の著作権は(財)都市緑化技術開発機構に所属します。